

タイトル	複数モチーフを扱っての鉛筆・構成デッサン			
学校名	千葉県立国分高等学校	美術	氏名	平山 宗男
教材費	300～400円		実施時間数	6時間

1. ねらい

1年次1学期の単元、スケッチブック表紙への名前のレタリング→鉛筆構成デッサン→静物着彩（アクリルガッシュ）のうち二つ目にあたる。

1学期は今後の授業において、常に主体的に構成すること・対象と関わり合いことを認識させる大切な位置づけとなっている。漫然とした授業・制作から抜け出し、必ず制作意図を持って臨むための第一歩としている。

2. モチーフ

紙風船、目玉クリップ、ターンクリップ

*紙風船は平成26年度で使用。クリップ2種は例年必ず組み合わせている。

3. 材 料

B4スケッチブック（ケント紙）、ユニ鉛筆（2B一本のみ）、デッサンイレーザー

4. 制作条件

①B4ケント紙に2B鉛筆を使用し、描写する。

②モチーフ3種類は全て画面に入れること。

③使用する紙風船は個人の所有（保管）になるが、破れたりしないように丁寧に扱う。

*描写する形を1週目に決めて記憶しておく（画像に残してもよい）。

④目玉・ターンクリップの数・大きさ・画面への入れ方は自由である。

⑤鉛筆は2B一本で仕上げる。デッサンイレーザーは2年間使用する前提で、一人に一個配付する。その後は各自で保管する。画面に十分な黒さを与えるように努力する。

⑥3週6時間で完成させる。

*前作レタリングの不足分については、今回のデッサン（6時間）、次回の着彩（6時間）の間に補うか、自主的に時間を設けて1学期末の評価に備える。

5. プロセス

①モチーフを画面内にどう納めるかをわら半紙にラフスケッチし、いくつか試みる。

②複数のモチーフの位置関係・角度、遠近感・浮遊感等多面的に検討する。

③構図が決定後、ケント紙に描写を始める。

④輪郭線に拘らず、明暗主体による空間・質感の表現を目指す。

⑤筆圧を強く、画面全体に適度な黒さが支配するように努める。

⑥仕上げの段階でディテール（細部）の描写、全体の明暗部のバランスに注意を払う。

6. 評 価

①物の見方や形の正確なとり方

②画面へのバランスのよい収め方、配置センス

③明暗の幅の広さ、空間・質感表現の確かさ

④かけた時間に見合う仕事量の豊かさ

7. 参考作品

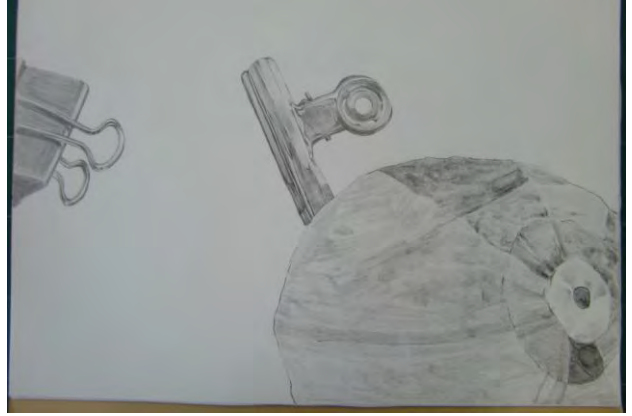
目玉・ターンクリップとの組み合わせ例

(1) 平成26年→紙風船

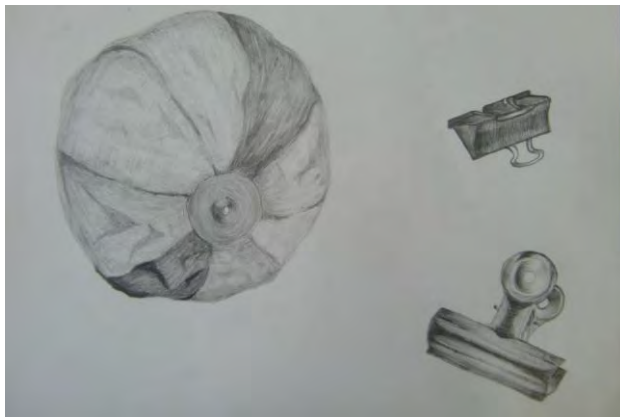
①作品1



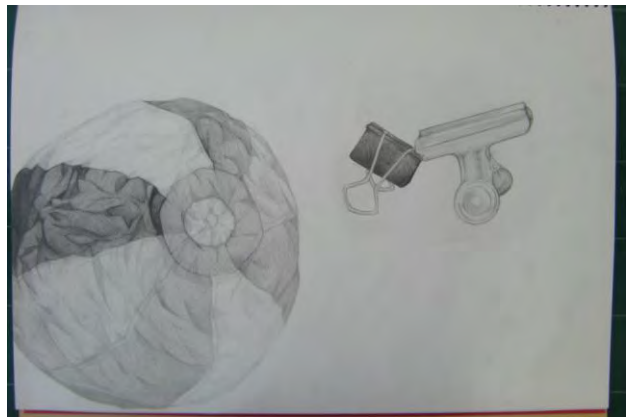
②作品2



③作品3

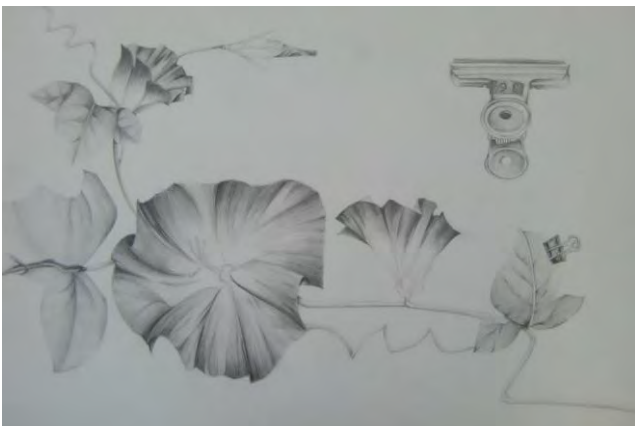


④作品4

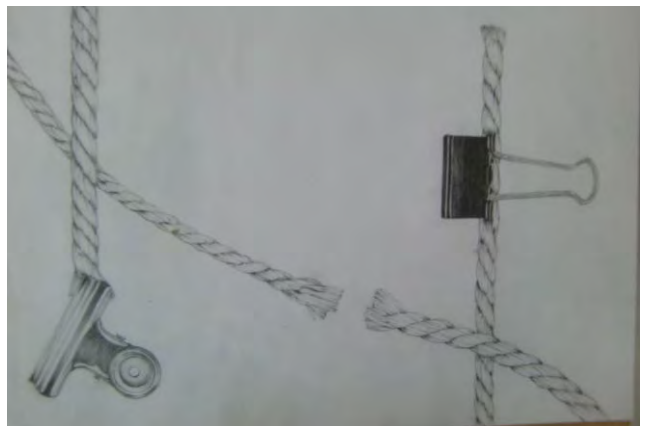


(2) 平成25年度以前の作品

①平成19年→造花



②平成20年→藁ロープ



③平成22年→軍手



④平成25年→縄ロープ

